

第5回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成14年3月14日 19:00～20:40

市民活動サポートセンターフレキシブルスペース

出席者 運営委員 安倍、新井、今城、江口、岡本、根本、林、松尾、道畑、百瀬
事務局 YMCA よこすかコミュニティサポート 田口、高村、重田
市役所市民部市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告した

2 審議事項

・提案どおり承認した

3 その他

- ・運営委員会の名簿（氏名・所属団体）をホームページに掲載することとした。
- ・時間別・曜日別統計資料は今後、委員に配布しないこととした。
- ・のたろんフェアのフィールドスタディを年間通して継続したいとの希望が参加団体や参加者から多く出たため、情報誌「のたろん」にコーナーを設け、受け入れ可能団体を紹介していくことを承認した。
- ・運営委員やサポートセンター利用団体等による相談制度を今後行うことを承認した。
- ・利用者ミーティングを6月、夜の時間帯で開催するため準備を進めることを承認した。
- ・次回運営委員会 5月16日(木) 19:00～

[意見概要]

1 報告事項

(1) 第4回運営委員会の議事録（資料1）

(今城委員)

- ・議事録がホームページに掲載されているが、運営委員の氏名、所属団体もわかるようにした方がよい。

(事務局)

- ・名簿をホームページに掲載するようにしたい。

(2) 利用状況について（資料2）

(百瀬委員)

- ・資料2の統計資料はファイル等で見られるようにしておけば、運営委員に配布する必要はないのではないか。

(江口委員)

- ・サポートセンターについてPR、説明する時に、数字が把握できる資料が手元に必要である。

(新井委員)

- ・時間別、曜日別統計は、あまり傾向が出ていないこともあるので、配布せず、それ以外はこれまでどおりというところで調整したい。

(3) 市民協働推進セミナー報告について (資料3)

(百瀬委員)

- ・市職員の参加が多く、熱心に市民活動について考えていることに感心した。開発関係の職員にも出席してほしい。いまだに疑問ではあるが、有償ボランティアについて少し理解できた気がする。

(松尾委員)

- ・期待していたほどではなかった。時間が短く感じた。ワークショップ形式でやりとりすることが少なかった。フィフティーフティイーといっても行政職員がどれだけそれを理解しているかが問題である。
- ・私が強く意見を言ったせいか、職員はガードが固かった。

(林委員)

- ・ふだんなかなか接点がない行政職員と交流する機会が持てたことは、とても貴重だった。市民協働の初歩を学ぶという点で、ほとんどの受講者のニーズに適していた。

(新井委員)

- ・これから市民協働を進めていく上で、まだ市民協働を十分理解できていないとか、どう進めていけばいいかと、職員も市民もお互い悩んでいるところが共通点として認識でき、これから協働を進める第一歩になった。

(安倍委員)

- ・行政職員の感想はどうだったか。

(事務局)

- ・市民と行政職員の立場の違いを実感しつつも、お互いの立場を考える機会になったこと、協働の必要性を確認できたことなど、前向きな意見が多かった。職員と市民の両方の立場で悩んでいることも感じられた。
- ・立場は違っても、まちを良くしたいという同じ思いを持って、ともに取り組むことを考えることに意味があったと思う。

(3) のたろんフェア2002について (資料3)

(道畑委員)

- ・多くの団体が参加し、フェアをきっかけに参加団体相互の交流、つながりができて、次へのステップへという形ができた。若い世代の人たちが活躍してくれたことを力強く感じた。
- ・ショッパーズプラザでの展示は来年も行えるのか。

(事務局)

- ・ショッパーズに「来年もお願いしたい」と依頼したが、「来年はどうなるかわからない」との回答だった。
- ・フィールドスタディを年間通して継続したい、ボランティア体験希望者を日常的に受け入れたいとの希望が参加団体から多く出たため、情報誌「のたろん」4月号から、コーナーを設け、受け入れ可能団体を紹介していきたいと考えている。

(江口委員)

- ・公益活動団体を紹介していくということと理解して良いか。日常的にボランティア体験希望者を受け入れたい団体とはどのような団体か。

(事務局)

- ・そのとおりである。受け入れ希望団体は、環境系、福祉系等、定期的に活動しているさまざまな団体である。

(林委員)

- ・のたろんフェアの成果であり、とても良い企画と思うが、事務局の業務が煩雑にならないか。

(事務局)

- ・ボランティアをやってみたいとの相談多く、受け入れできる団体を把握していれば紹介もしやすい。のたろんフェアの時のように、サポートセンター側からの事務連絡はないので、業務的には問題ない。

(松尾委員)

- ・会員募集とは違うのか。

(事務局)

- ・体験できるという企画なので、会員募集とは違う。ボランティアをやってみたいという人は多いが、ずっとやらなければいけないのかと不安に思っている人も多い。この企画では、参加者がいろいろ体験してみて、自分に合った活動を選ぶことが可能である。結果として、会員募集につながることも考えられる。

(岡本委員)

- ・招待団体のマジッククラブはサポートセンターに登録している公益活動団体か。

(事務局)

- ・登録はしていないが公益活動団体である。

(松尾委員)

- ・フリーマーケットは去年より少なく感じた。展示の前で販売すると展示物が見えにくいし、行ったら買わなくちゃいけない感じがして近寄りにくい。
- ・実行委員は、交代で今年やらない人が来年やるとか順番にしてはどうか。

(事務局)

- ・フリーマーケット出店団体数は去年より5団体多い。パネル展示とフリーマーケットを分離しないレイアウトにしたことで、去年よりすっきりしたため、少なく感じたのではないか。レイアウトは実行委員の中でも意見が分かれたところだが、昨年、フリーマーケットのみに人が集中したという反省点を踏まえてのレイアウトである。

(新井委員)

- ・実行委員会の中で試行錯誤しながら進めていくことに意義がある。

2 審議事項

(1) 市民公益活動団体について (資料 6)

(松尾委員)

- ・公益団体として認める基準はどうなっているか。No.46 まちづくり探検隊は公益となっていないがどういうことか。

(事務局)

- ・市民公益活動団体は、予約利用等、サポートセンターを優先利用できることとしている。優先利用を希望する団体には公益活動がわかる資料を提出してもらい、その内容で判断してい

る。

- ・No.46 も含め、公益性の欄が空欄になっているのは、公益的な活動がわかる資料の提出がないので、公益性については判断していない団体である。来年度、データベースの見直しを進める中で確認作業を行い、利用団体については、可能な限り公益性をチェックしたものを作りたいと考えている。

(岡本委員)

- ・資料 6 に各団体の分野を加えられないか。

(事務局)

- ・ホームページやデータベースでは分野ごとの検索ができるようになっている。

3 その他

(江口委員)

- ・最近、拾い取りの機械の調子が悪いようなので点検してほしい。

(事務局)

市民活動支援施設ネットワーク会議について

- ・市民活動支援施設であるサポートセンター、社協ボランティアセンター、生涯学習センター、国際交流協会で、情報交換、連携した事業の可能性などを検討するネットワーク会議立ち上げのための打ち合わせを 3 月 26 日に行う。新たな方向性が出てくれば運営委員会でも報告したい。

市民協働推進補助制度について

- ・平成 14 年度、市民公益活動団体に対する資金的支援として新たな補助制度をスタートする予定である。詳しくは 4 月の広報よこすかをご覧ください。

利用者ミーティングについて

- ・次回の利用者ミーティングを 6 月中、今度は夜の時間帯に開催したいと考えている。参加者募集の広報を 5 月 16 日の運営委員会以前、5 月初めから行いたいと考えているのでご了承ください。

相談員制度について

- ・サポートセンターでさまざまな相談に対応するため、運営委員をはじめ、市内で活躍する人に登録してもらい相談員制度をスタートしたいと考えている。

(根本委員)

- ・相談しやすい体制づくり雰囲気づくりは大切である。自分自身も直接相談に対応できなくても、適切な人につなぐなど橋渡し役ができると思う。

(今城委員)

- ・曜日、時間、分野を決めて掲示しておけばわかりやすい。市の出前トークも相談員制度として利用できるのではないか。

以上